



2015年度(平成28年3月期)  
**第1四半期 決算説明会**

エーザイ株式会社

2015年7月31日

*h/c*  
human health care

# 将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

# 2015年度第1四半期 連結業績(IFRS)



(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	1,328	100.0	1,392	100.0	105
売上原価	481	36.2	494	35.5	103
売上総利益	847	63.8	898	64.5	106
研究開発費	291	21.9	327	23.5	112
販売管理費	472	35.5	499	35.8	106
その他の損益	0	0.0	4	0.3	1,114
営業利益	85	6.4	76	5.5	90
四半期利益	57	4.3	55	4.0	96

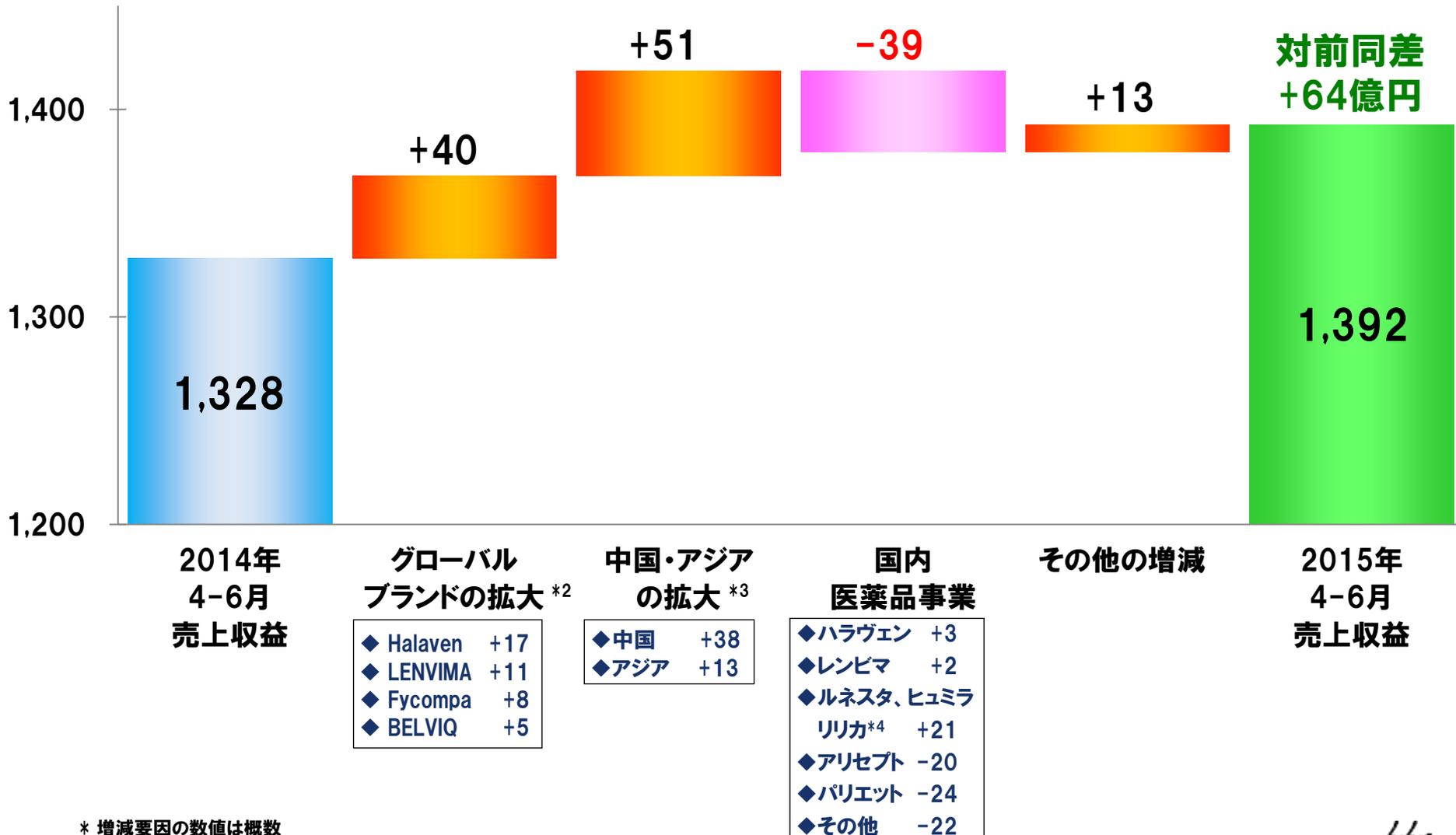
2015年度第1四半期期中平均レート

米ドル: 121.36円(前期変動率+18.8%)、ユーロ: 134.15円(同△4.2%)、英ポンド: 186.11円(同+8.3%)、人民元: 19.56円(同+19.3%)

# 売上収益の増減要因分析

## グローバルブランド、中国・アジア\*1が順調に拡大

(億円)



\* 増減要因の数値は概数

\*1 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

\*2 国内医薬品事業の実績は除く

\*3 グローバルブランドの実績は除く

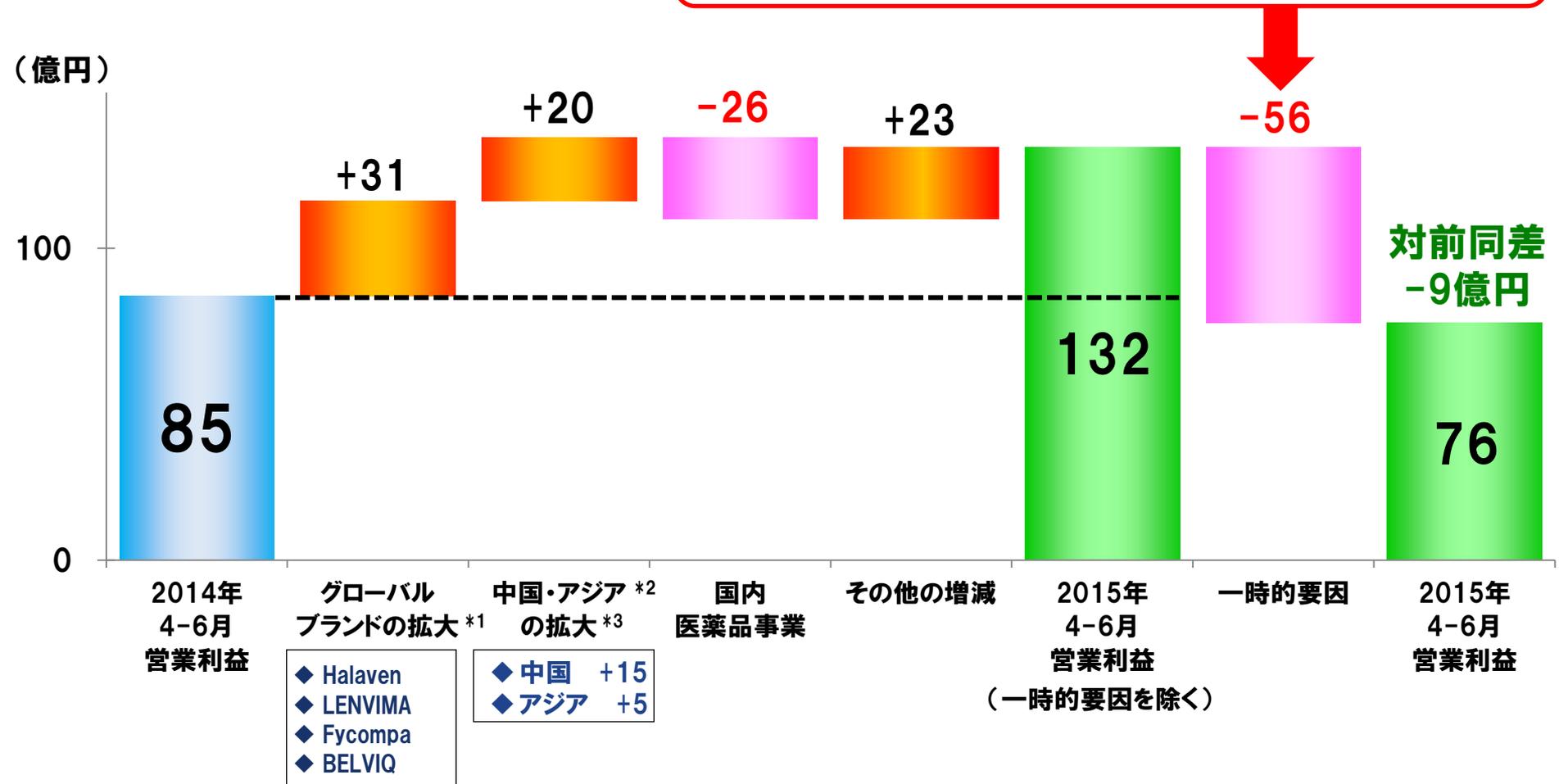
\*4 アライアンス収入

# 営業利益の増減要因分析

## 一時的要因を除き増益基調



2014年度1Q Biogen社からの一時金の受領 36億円  
 米国構造改革による一時金の発生 20億円



- ◆ Halaven
  - ◆ LENVIMA
  - ◆ Fycompa
  - ◆ BELVIQ
- ◆ 中国 +15
  - ◆ アジア +5

\* 増減要因の数値は概数  
 \*1 国内医薬品事業の実績は除く \*2 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 \*3 グローバルブランドの実績は除く

# ROE\*1 経営の継続的な取り組み



マージン	FAM*2プロジェクト	固定資産の現金化、プロジェクトの推進
	リファイナンスにより 金利水準は低下	<p>&lt;長期借入金利率*3の推移&gt;</p> <p>2014年6月末 2.12 (%)</p> <p>2015年6月末 1.62 (%)</p> <p>2014年度に日米にて 長期借入金の 借換を実施</p>
レバレッジ	有利子負債残高は 着実に減少	<p>&lt;有利子負債残高の推移&gt; (億円)</p> <p>2014年6月末 2,410</p> <p>2015年6月末 2,170</p> <p>2015年6月5日 第7回無担保社債 300億円を償還</p>
	キャッシュポジションの 適正化	<p>&lt;キャッシュポジションの残高推移&gt;</p> <p>■日本 ■アメリカス ■中国 ■アジア ■欧州</p> <p>2014年6月末 2015年6月末</p> <p>2014年12月 米国子会社からの 資本の払い戻しを実施</p>
ターンオーバー	CCC*4プロジェクトは 順調な進捗	<p>&lt;国内売掛金 回収日数構成比*5の推移&gt;</p> <p>(%)</p> <p>2014年6月末 2015年6月末</p> <p>■ 90日以内</p> <p>■ 90日以上</p> <p>国内売掛金の 回収日数を短縮</p>

# Strong Balance Sheetによる株主価値の向上



	2014年 3月末実績	⇒	2014年 6月末実績	⇒	2015年 3月末実績	⇒	2015年 6月末実績
自己資本(億円)	5,263	⇒	5,043	⇒	5,987	⇒	5,963
自己資本比率*1(%)	54.0	⇒	53.7	⇒	56.8	⇒	59.5
Net Debt*2(億円)	719	⇒	914	⇒	342	⇒	631
Net DER*3(倍)	0.14	⇒	0.18	⇒	0.06	⇒	0.11

## 成長回帰のための積極投資

- ・認知症フランチャイズおよび  
オンコロジーフランチャイズへの注力
- ・M&A及びパートナーシップ

Debt Capacity  
2000億円レベル

VCIC\*4  
価値創造を担保する  
投資採択基準

## 安定配当方針

- ・150円の配当維持
- ・資本コストを上回るDOE\*58%レベル



**成長投資と安定配当を両立し、持続的に株主価値を向上**

\* 配当支払いは毎年の取締役会決議を前提とする \*1 IFRSベースの親会社所有者帰属持分比率と同義 \*2 有利子負債(社債及び借入金)－現金及び現金同等物－3カ月超預金等

\*3 Net DER: Net Debt Equity Ratio=(有利子負債(社債及び借入金)－現金及び現金同等物－3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

\*4 Value-Creative Investment Criteria: リスク調整後ハードルレートをを用いたNPVとIRRスプレッドに基づく投資採択基準 \*5 Dividend on Equity

# 2015年度 連結業績見通し(IFRS)



(億円、%)

	2014年度		2015年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上収益	5,485	100.0	5,565	100.0	101
売上原価	1,936	35.3	1,960	35.2	101
売上総利益	3,549	64.7	3,605	64.8	102
研究開発費	1,319	24.1	1,265	22.7	96
販売管理費等*	1,946	35.5	1,880	33.8	97
営業利益	283	5.2	460	8.3	162
当期利益	435	7.9	270	4.9	62
EPS(円)	151.6		93.8		62
ROE(%)	7.7		4.5		
DOE(%)	7.6		7.2		
配当金(円)	150		150		

\* 販売管理費等:販売管理費+その他の損益

2014年度期中平均レート 米ドル:109.92円、ユーロ:138.77円、英ポンド:176.79円、人民元:17.73円

2015年度期中平均予想レート 米ドル:120円、ユーロ:137円、英ポンド:183円、人民元:19.20円

## グローバルブランド4品目

### 国内医薬品事業

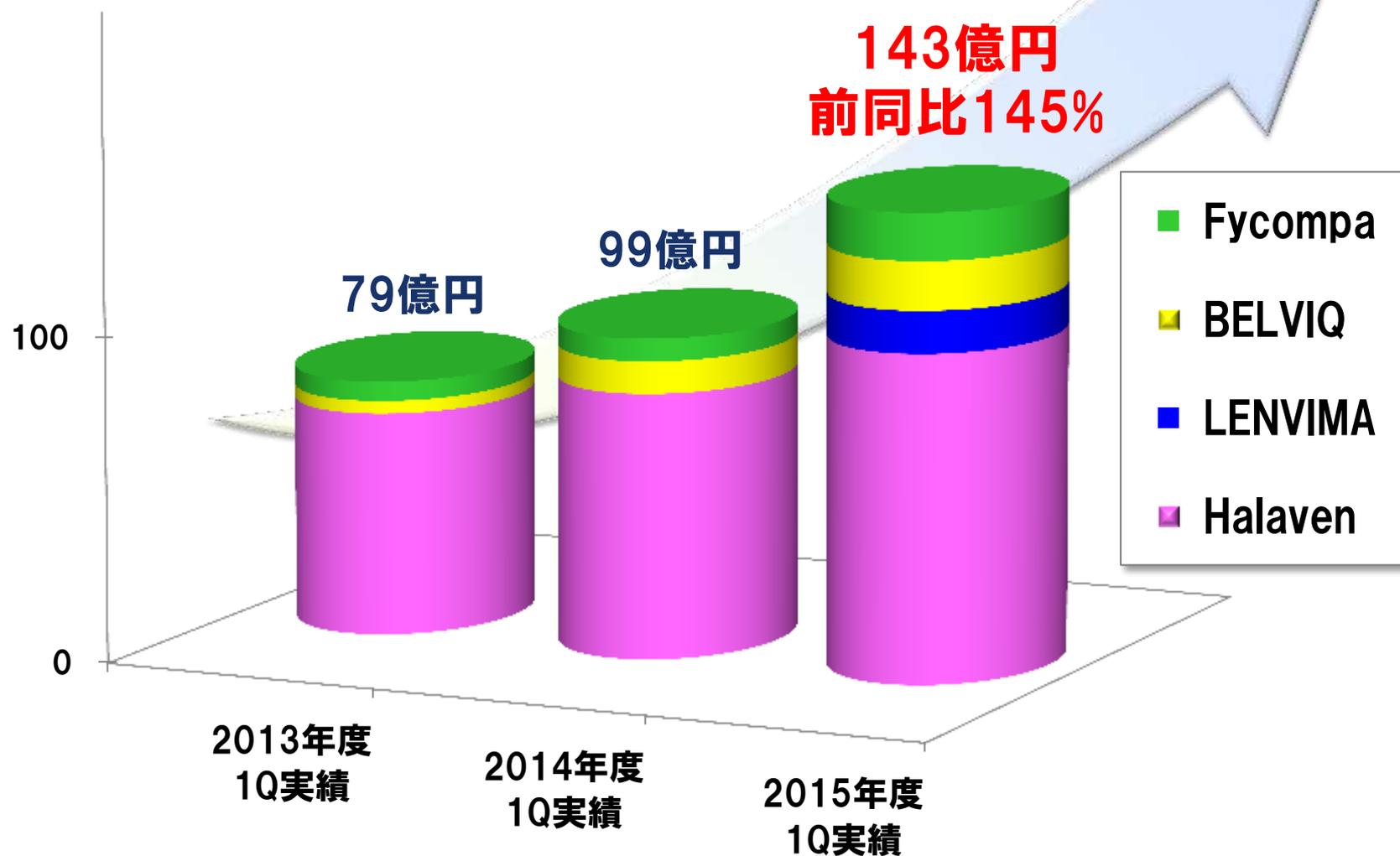
### 中国・アジア\*

### 次世代アルツハイマー型認知症治療薬

# グローバルブランド4品目の成長

グローバルブランド4品目 売上収益推移

(億円)



# Halaven 四半期で初めて売上収益100億円を達成

**1Q売上収益101億円  
前同比124%達成**

**日本**  
18億円  
前同比117%

- デュエット体制\*が奏功し  
両ユニットの共闘施設での  
患者様貢献が拡大
- 早期ラインでの処方拡大

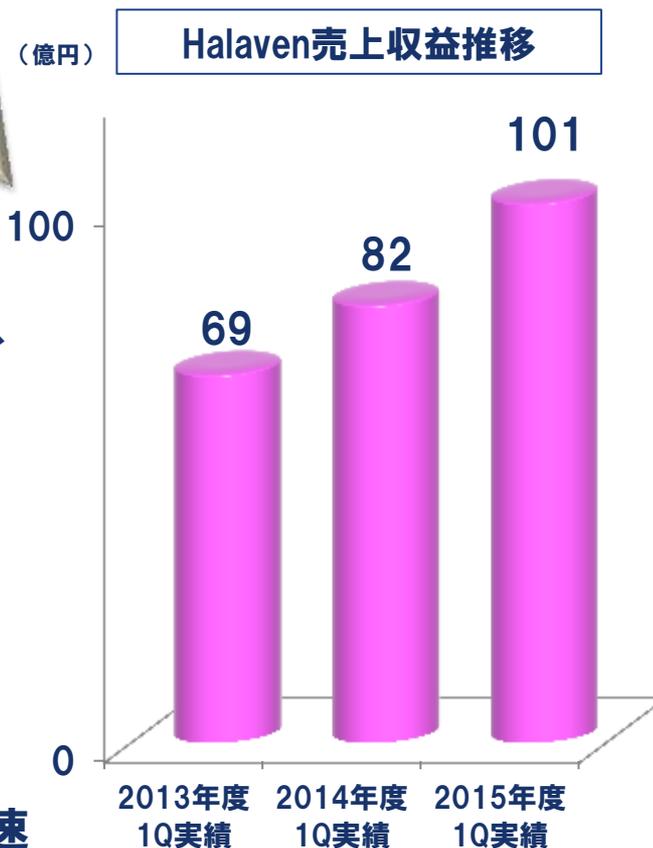
**アメリカス**  
44億円  
前同比116%

- 米国、カナダに続き  
ブラジル(2014年11月)、  
メキシコ(2015年4月)で  
上市達成

**EMEA**  
34億円  
前同比133%

**アジア**  
4億円  
前同比199%

転移性乳がん2<sup>nd</sup>ライン治療の適応症取得により成長が加速



\* 地域包括hhcユニットMR 約630名、オンコロジーhhcユニットMR 約130名による共闘体制

## 2015年7月 日米欧で同時申請達成

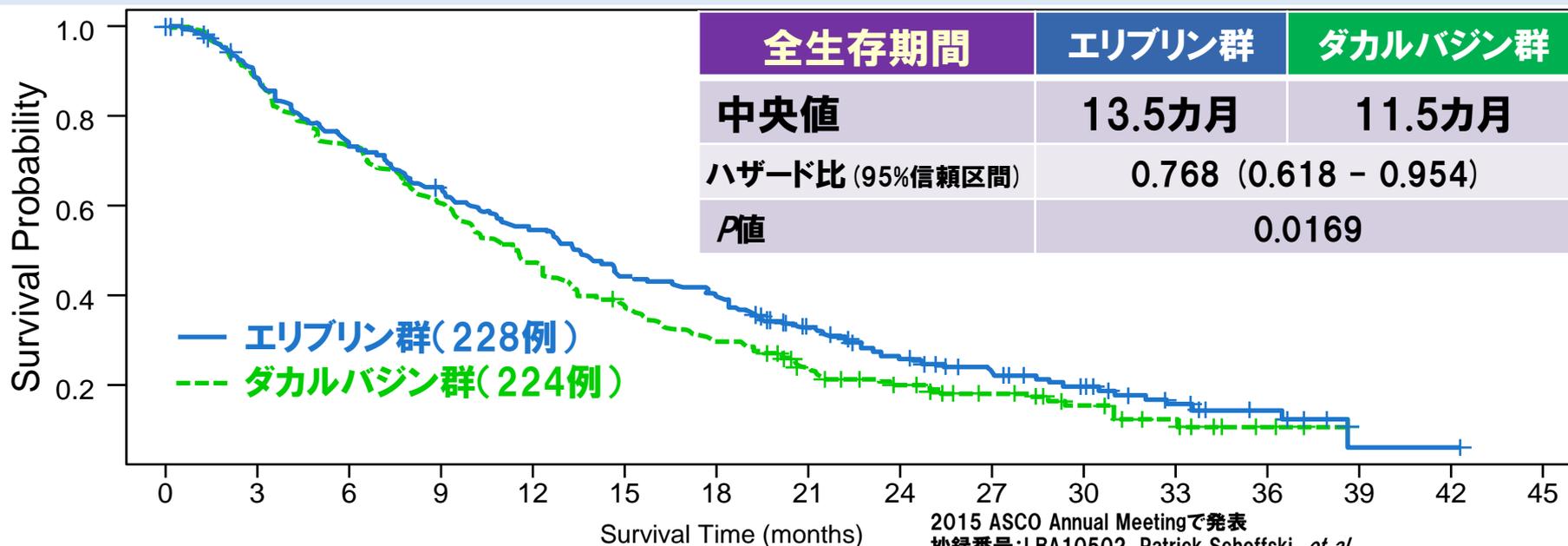
米国および日本において、オーファンドラッグ指定取得済み

少なくとも2レジメンの前治療後に増悪した進行または再発軟部肉腫（平滑筋肉腫または脂肪肉腫）の患者様を対象としたフェーズIII試験

エリ布林投与群はダカルバジン投与群に比較して  
**主要評価項目である全生存期間(OS)を  
統計学的有意差をもって、2カ月延長**

進行性軟部肉腫を対象とした無作為化臨床試験で初のOS延長

乳がんに加えて軟部肉腫においても、エリ布林が単剤でOS延長を示すことが確認



全世界で既に900名超の甲状腺がん患者様が服薬\*2

## 1Q 売上収益13億円、計画を上回る進捗

NCCN\*3甲状腺がんガイドラインにLenvatinibがポジティブステートメントとともに追記(2015年5月)

### 米国 2015年2月26日上市

- ◆ 上市後5カ月で約600名の甲状腺がん患者様が服薬\*2  
年度目標約1000名に対して既に約60%の進捗を達成
- ◆ 治療状況のモニタリング、副作用の管理、カウンセリング支援を行うスペシャリティー ファーマシーを通じて患者様に薬剤をお届け



### 日本 2015年5月20日上市

- ◆ 上市後約2カ月で250名を超える甲状腺がん患者様が服薬\*2
- ◆ 国内で最もレンビマ処方経験の多い治験施設の実臨床におけるチーム医療 (チームレンビマ) の具体例を全国に発信

### 欧州 2015年6月10日上市

- ◆ 上市後1カ月強で約70名の甲状腺がん患者様が服薬を開始\*2
- ◆ 英国、アイルランド、北欧、オーストリア、ドイツにて陸続と上市達成
- ◆ Nature Reviews、Future Oncology等の著名な科学誌で欧州の医師がLENVIMAを紹介

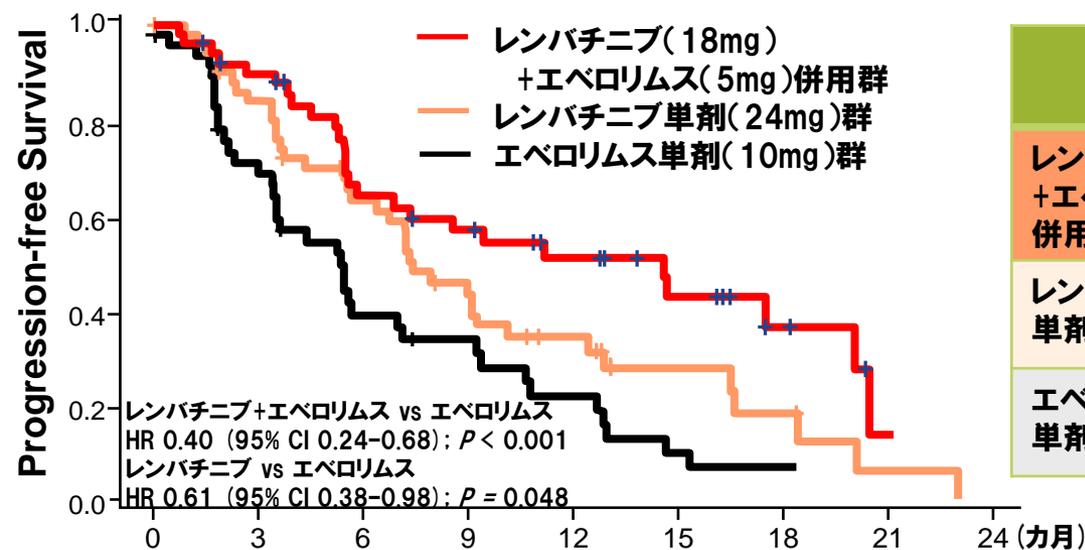
\*1 米国での適応症:局所再発又は転移、進行性、放射性ヨウ素治療抵抗性分化型甲状腺がん 日本での適応症:根治切除不能な甲状腺癌  
欧州での適応症:成人での放射性ヨウ素治療抵抗性の進行性又は再発の分化型甲状腺がん(乳頭がん、濾胞がん、ヒュルトレ細胞がん)

\*2 2015年7月24日時点の社内集計 \*3 National Comprehensive Cancer Network

# LENVIMA 腎細胞がん 2ndライン フェーズII試験 ASCO 2015で良好な結果を口頭発表

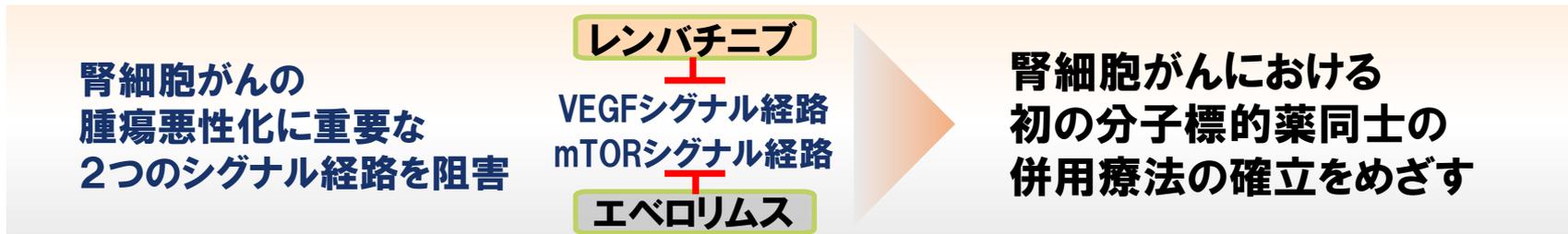
VEGFおよびその受容体を標的とする薬物による治療歴を有する転移性腎細胞がんの患者様を対象としたフェーズII試験

レンバチニブ+エベロリムス併用群は、エベロリムス単剤群に比較して  
**主要評価項目である無増悪生存期間(PFS)を9カ月延長**  
**副次評価項目である奏効率(ORR)、全生存期間(OS)でも良好な結果**



	PFS中央値 (95% CI)	奏効率	全生存期間 アップデート解析
レンバチニブ + エベロリムス併用群(51例)	14.6カ月 (5.9-20.1)	43%	25.5カ月 (16.4-NE)
レンバチニブ単剤群(52例)	7.4カ月 (5.6-10.2)	27%	19.1カ月 (13.6-26.2)
エベロリムス単剤群(50例)	5.5カ月 (3.5-7.1)	6%	15.4カ月 (11.8-19.6)

2015 ASCO Annual Meetingで発表 抄録番号:4506 Robert Motzer *et al.*  
 The American Society of Clinical Oncologyおよび発表者の許可を得て使用



**2015年7月 米国FDAよりブレイクスルーセラピーの指定を受領**

## 肝細胞がん 1<sup>st</sup>ライン フェーズIII試験

順調に進行中  
940例の患者様組み入れを  
7月に達成

2016年度に申請予定

## 腎細胞がん 2<sup>nd</sup>ライン フェーズII試験

良好なトップラインデータを取得  
ASCO\*にて発表

2015年7月 米国FDAより  
ブレイクスルーセラピーの指定を受領

## 免疫チェックポイント阻害剤 KEYTRUDA(一般名:pembrolizumab) との併用療法

肺がん、メラノーマ、頭頸部がん、  
膀胱がん、腎がん、子宮内膜がん  
を対象としたフェーズIb/II試験を  
2015年7月に開始

## 子宮内膜がん 2<sup>nd</sup>ライン

フェーズII試験(204試験)で  
血中アンジオポエチン2が臨床効果を予測する  
バイオマーカー候補として示唆されたことを受け  
血中アンジオポエチン2を利用した  
コンパニオン診断薬開発のための  
新たなフェーズIIb試験を準備中

# 米国、欧州で全般てんかん<sup>\*1</sup>の新適応追加を達成

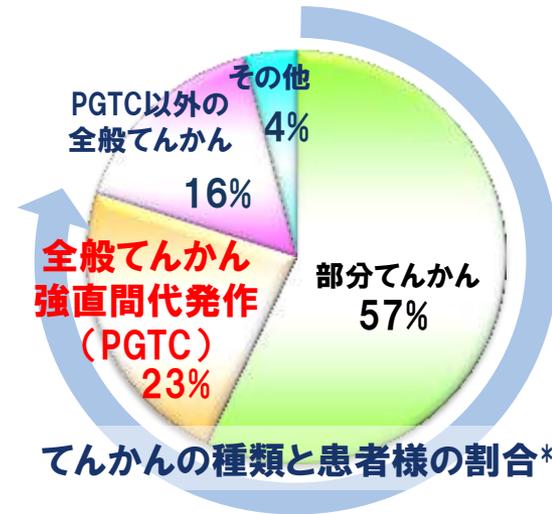
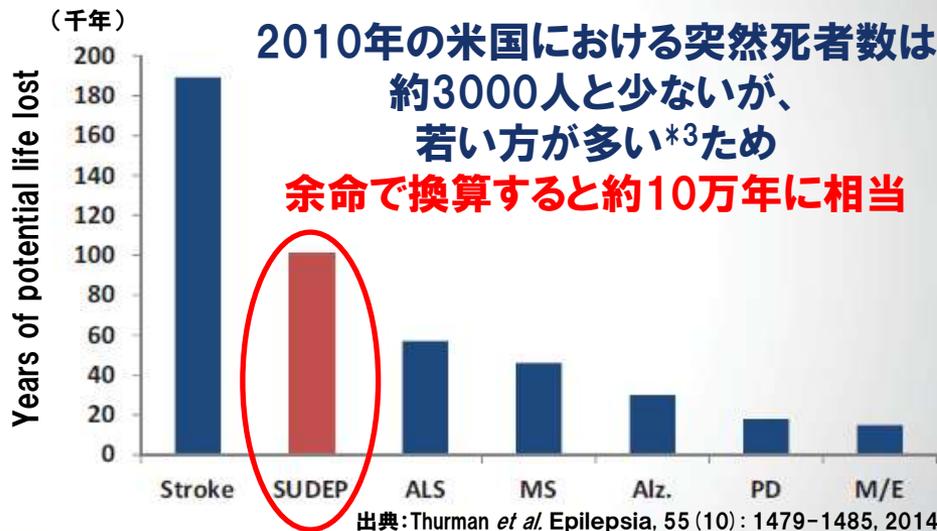
1Q売上収益 15億円(前同比209%)

2015年6月 欧米:全般てんかんの強直間代発作に対する併用療法で承認取得  
 2015年7月 日本:部分発作および強直間代発作に対する併用療法の適応で承認申請

## 治療の重要性が高い強直間代発作

- ▶ てんかんの中でも重篤な発作型の一つ
- ▶ 突然の転倒による重篤なけがの恐れ
- ▶ 予期せぬ突然死(SUDEP<sup>\*2</sup>)の重要な危険因子

2010年の米国における突然死者数は約3000人と少ないが、若い方が多い<sup>\*3</sup>ため  
 余命で換算すると約10万年に相当



適応拡大により、約8割<sup>\*4</sup>を占めるてんかんにおいて併用療法としての使用が可能

## PGTCの併用療法に関するフェーズIII試験結果<sup>\*6</sup>

- Fycompa投与群で発作頻度が投与前と比べて76.5%減少(プラセボ投与群では38.4%減少)
- Fycompa投与群の30.9%が13週間にわたり無発作状態を維持

# 全般てんかん<sup>\*1</sup> 適応追加による成長の加速をめざす

\*1 強直間代発作(PGTC) \*2 Sudden Unexpected Death in Epilepsy \*3 SUDEPの最も多い年齢層は31-40歳 \*4 Fycompaの現在の適応症は併用療法のみ  
 \*5 出典: Hauser WA, *et al.* Epilepsia \*6 68th Annual American Epilepsy Society Meetingで発表 ポスター番号: 2389 Jacqueline A French *et al.*

## 継続的成長と利益確保に向けた取り組み

**1Q実績 売上収益 15億円（前同比145%）**  
**販売管理費 前同比約6割にコントロール**

### レーザー フォーカス マーケティング ミックスの推進

これまでに得た経験とナレッジをもとに  
 効率的なマーケティングを追究

**MR数の最適化**（エーザイMR約90名、シンジケートMR\*1約230名）  
 MR数を約320名に最適化、肥満症治療薬の処方が多い医師を中心に活動

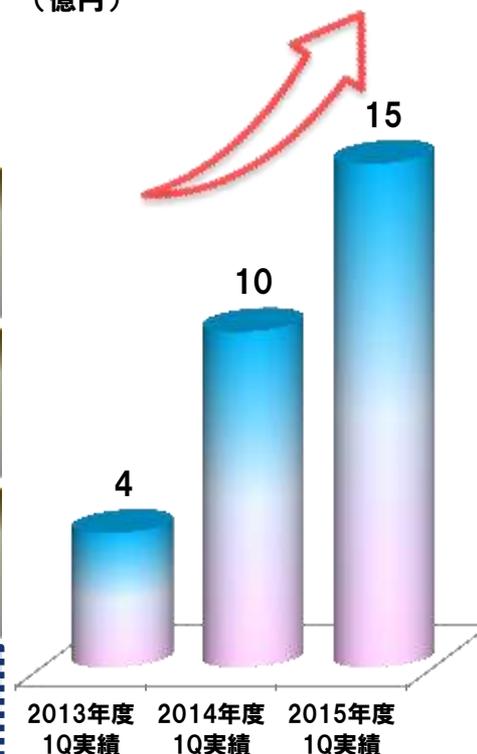
**患者様アクセスの加速**  
 毎月の患者様自己負担を上限\$75に設定した支援プログラムを提供

**疾患啓発活動の推進**  
 ハイシーズンにDRTV\*2を集中展開、効率的に疾患啓発活動を推進

**ライフサイクルマネジメントの推進**  
 1日1回製剤を2015年度に申請予定(米国)

BELVIQ® 売上収益推移

(億円)



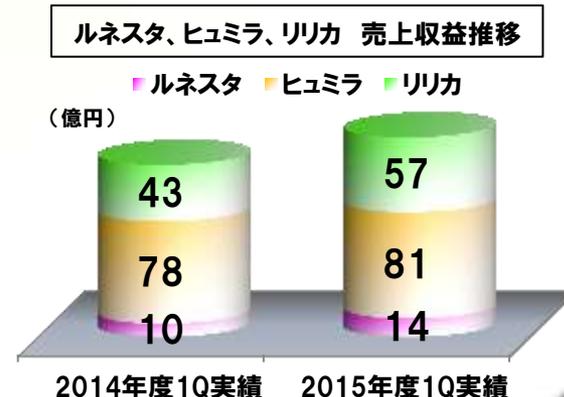
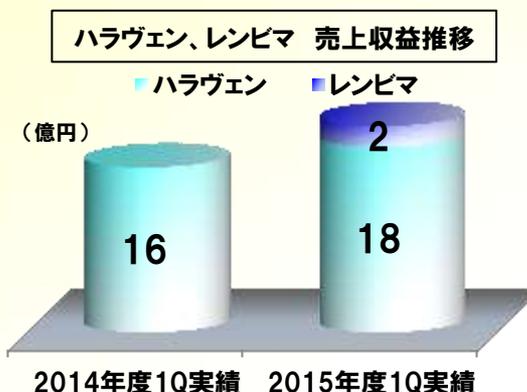
# 日本医薬品事業 計画通りの進捗



1Q 売上収益 698億円、セグメント利益 313億円

売上収益 年度見通し2,820億円の達成に向けて順調なスタート

- 地域包括とオンコロジーの両ユニットの連携によるデュエット体制が奏効し、ハラヴェンと新製品レンビマが伸長  
(1Q売上収益 ハラヴェン 18億円(前同比 117%)、レンビマ 2億円  
2品合計 20億円(前同比 129%))
- ルネスタ、ヒュミラ、リリカは堅調に拡大  
(1Q売上収益前同比 ルネスタ 138%、ヒュミラ 104%、リリカ<sup>\*1</sup> 133%)
- アリセプトはほぼ計画通りの進捗  
レビー小体型認知症患者様への貢献拡大に向けた取り組みを継続 (1Q売上収益 114億円(前同比85%))
- ジェネリック事業において新製品<sup>\*2</sup>を陸続と上市
- 売上総利益は計画通りの進捗  
費用効率化により、計画を上回るセグメント利益を確保



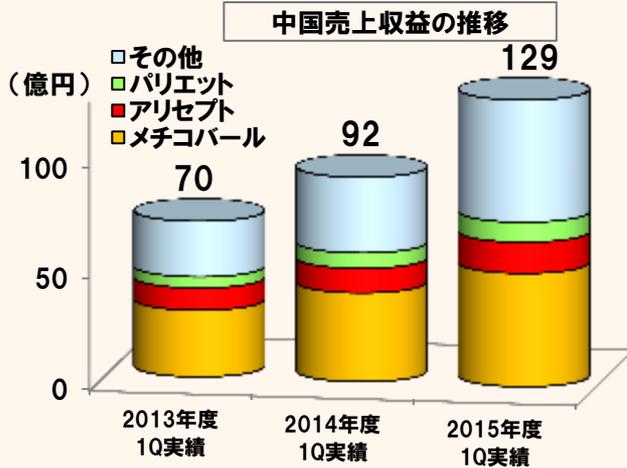
\*1 アライアンス収入

\*2 クロビドグレル錠「EE」、ナフトビジル錠・OD錠「EE」、ドセタキセル点滴静注「EE」、レトロゾール錠「EE」

# 中国、アジアの続伸

## 売上収益、セグメント利益ともに2桁成長を継続

**中国 1Q売上収益129億円(前同比141%)、セグメント利益42億円(同155%)**



戦略3製品のプロモーションに注力

**メチコバル**

➢ 多科展開を推進  
(神経内科、糖尿病・内分泌内科、眼科、整形外科)

**パリエット**

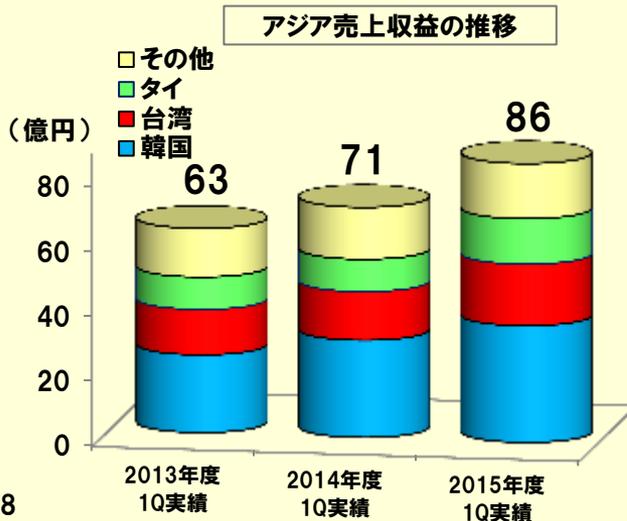
➢ ヘリコバクター・ピロリ菌への高い除菌効果を訴求

**アリセプト**

➢ メモリークリニックを10カ所増設(計145カ所)

オートノミーモデルによるローカルマネジメント体制の円滑な進行

**アジア 1Q売上収益86億円(前同比121%)、セグメント利益23億円(同144%)**



次世代コアマーケット3カ国で事業拡大を加速

インド

インドネシア

ベトナム

新製品の申請、上市の順調な進捗

- ・アリセプト23mg 上市:5カ国\*1
- ・Halaven MBC\*23rdライン上市:8カ国\*3  
2ndライン適応取得:5カ国\*4
- ・Fycompa 上市:5カ国\*5、承認取得:2カ国\*6
- ・LENVIMA 申請中:韓国、シンガポール

医薬品アクセスの向上による  
貢献の継続

アフオーダブルプライシング\*7

- ・Halavenで累計900名の患者様に貢献
- ・Fycompa、LENVIMAへ適用を検討

\*1 韓国、香港、タイ、インド、フィリピン \*2 転移性乳がん \*3 韓国、台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インド  
\*4 韓国、香港、タイ、フィリピン、インド \*5 部分てんかんの適応:香港、シンガポール、マレーシア、台湾、タイ \*6 フィリピン、韓国  
\*7 患者様が購入しやすい価格設定

# アルツハイマー型認知症における先制医療に向けた アミロイドβ(Aβ)仮説に基づく3つの開発品



## BAN2401

抗Aβ  
プロトフィブリル抗体

フェーズII試験が順調に進行中

2015年6月 フェーズII試験の7回目(500例)の中間解析を実施

2015年度4Q フェーズII試験のトップライン結果取得予定(最短650例)

## E2609

自社創製の  
BACE\*1阻害剤

フェーズII試験の安全性ステージ(Stage A)が順調に進行中

2015年度4QにStage Aのトップライン結果取得予定

## Aducanumab (BIIB037)

Biogen社が開発中の  
抗Aβ抗体  
(エーザイが  
オプション権を保有)

フェーズIb試験中間解析結果に関する最新データがAAIC\*2で発表された

**Aducanumab投与群において、用量依存的なアミロイドプラークの減少、  
用量依存的な認知機能の低下抑制、許容できる安全性が認められた**

フェーズIII試験が開始

**早期のアルツハイマー型認知症患者様を対象とした18カ月間の試験を2本実施  
主要評価項目:CDR-SB\*3スコア**

\*1 BACE: βセクレターゼ \*2 AAIC: Alzheimer's Association International Conference 2015

\*3 Clinical Dementia Rating-Sum of Boxes: 臨床的認知症重症度判定尺度

# 2015年度事業計画の達成に向けて



## コアビジネスの成長回帰

グローバルブランド4品目の拡大



日本医薬品事業の成長確保

中国／アジアにおける高い成長の継続

研究開発投資の選択と集中(認知症、オンコロジー領域)

構造改革、戦略的オプションの断行

米国構造改革

ノースカロライナ  
工場の譲渡

2015年度は売上収益、営業利益で成長回帰へ

# 参考資料

# セグメント売上収益



(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	売上収益	構成比	売上収益	構成比	前同比
日本*1	737	55.5	698	50.1	95
アメリカス*2	254	19.1	298	21.4	117
中国	92	6.9	129	9.3	141
アジア*3	71	5.4	86	6.2	121
EMEA*4	88	6.7	102	7.3	115
薬粧事業(日本)*5	38	2.8	40	2.9	107
報告セグメント計	1,280	96.4	1,353	97.2	106
その他事業	48	3.6	39	2.8	82
連結売上収益	1,328	100.0	1,392	100.0	105

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

\*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬 \*2 北米、中南米 \*3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等 \*4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

\*5 一般用医薬品

# セグメント利益



(億円、%)

	2014年4-6月			2015年4-6月			
	セグメント利益	構成比	利益率	セグメント利益	構成比	利益率	前同比
日本*1	339	84.2	46.0	313	72.9	44.9	92
アメリカス*2	1	0.2	0.3	21	4.9	7.1	2,446
中国	27	6.8	29.7	42	9.8	32.5	155
アジア*3	16	3.9	22.3	23	5.3	26.4	144
EMEA*4	11	2.7	12.2	19	4.3	18.3	173
薬粧事業(日本)*5	△4			6	1.4	14.4	
報告セグメント計	390	96.7	30.4	423	98.7	31.3	109
その他事業	13	3.3	27.4	6	1.3	14.7	44
研究開発費および 親会社の本社管理費等	△318			△353			111
連結営業利益	85		6.4	76		5.5	90

日本、アメリカス、中国、アジア、EMEAは医薬品事業

\*1 医療用医薬品、ジェネリック医薬品、診断薬

\*2 北米、中南米

\*3 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

\*4 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

\*5 一般用医薬品

# 日本医薬品事業の業績



(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	737	100.0	698	100.0	95
医療用医薬品計	660	89.5	615	88.1	93
アリセプト	134	18.2	114	16.4	85
パリエット*1	108	14.6	84	12.0	78
ヒュミラ	78	10.5	81	11.6	104
リリカ*2	43	5.8	57	8.2	133
メチコパール	63	8.6	55	8.0	88
ワーファリン	24	3.3	21	3.0	86
ハラヴェン	16	2.1	18	2.6	117
アクトネル	19	2.5	17	2.5	92
ルネスタ	10	1.4	14	2.0	138
セルベックス	14	1.9	11	1.5	75
レンビマ			2	0.3	
ジェネリック医薬品	64	8.6	69	9.8	108
診断薬	14	1.9	14	2.1	105
セグメント利益*3	339	46.0	313	44.9	92

\*1 ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキュア400/800」および「ラベファインパック」の売上収益を含む \*2 アライアンス収入

\*3 当連結会計年度より日本における一部の費用の管理体制を見直し、販売費および一般管理費の配分方法を変更しました。

この変更に合わせて、前連結会計年度の「日本医薬品事業」及び「薬粧-日本」のセグメント利益、「親会社の本社管理費等」の数値を修正再表示しています。

# アメリカス医薬品事業の業績



(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	
売上収益	254	100.0	298	100.0	117	[99]
Aloxi	126	49.5	135	45.2	107	[90]
ハラヴェン	38	15.0	44	14.8	116	[99]
Banzel	22	8.8	27	9.2	122	[102]
アシフェックス	39	15.2	25	8.5	65	[55]
BELVIQ	10	4.0	15	4.9	145	[122]
レンビマ			11	3.6		
Fycompa	2	0.6	7	2.5	475	[403]
セグメント利益	1	0.3	21	7.1	2,446	[1,864]

[ ]内は現地通貨ベース

# 中国、アジア医薬品事業の業績



## <中国>

(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	92	100.0	129	100.0	141 [119]
メチコバル	40	43.9	51	39.4	127 [106]
強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン	13	14.4	23	17.5	172 [144]
アリセプト	11	11.9	14	10.6	126 [106]
パリエット	7	7.7	9	7.0	129 [108]
セグメント利益	27	29.7	42	32.5	155 [125]

[ ]内は現地通貨ベース

## <アジア\*>

(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	71	100.0	86	100.0	121 [108]
アリセプト	21	29.9	26	30.5	124 [110]
ヒュミラ	20	27.7	22	25.8	113 [100]
メチコバル	6	8.3	9	10.1	148 [130]
パリエット	8	11.8	8	9.6	98 [87]
ハラヴェン	2	3.1	4	5.0	199 [175]
セグメント利益	16	22.3	23	26.4	144 [122]

\* 韓国、台湾、香港、インド、アセアン等

[ ]内は現地通貨ベース

*hbc*  
human health care

# EMEA医薬品事業、薬粧(一般用医薬品等)の業績



## <EMEA\*>

(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	88	100.0	102	100.0	115 [117]
ハラヴェン	26	29.2	34	33.7	133 [134]
ゾネグラン	19	22.0	20	20.0	104 [107]
Zebinix	7	7.8	9	8.8	130 [135]
Fycompa	5	6.1	7	7.0	132 [134]
イノベロン	5	6.1	5	5.4	102 [104]
レンビマ			0	0.1	
セグメント利益	11	12.2	19	18.3	173 [196]

\* 欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア

[ ]内は現地通貨ベース

## <薬粧-日本>

(億円、%)

	2014年4-6月		2015年4-6月		
	実績	売上比	実績	売上比	前同比
売上収益	38	100.0	40	100.0	107
チョコラBBグループ	25	66.3	25	62.6	101
セグメント利益*	△4		6	14.4	

\* 当連結会計年度より日本における一部の費用の管理体制を見直し、販売費および一般管理費の配分方法を変更しました。この変更に合わせて、前連結会計年度の「日本医薬品事業」及び「薬粧-日本」のセグメント利益、「親会社の本社管理費等」の数値を修正再表示しています。